

第2回 津山市総合教育会議 次第

日時：平成27年10月29日(木) 15:30～
場所：津山市役所 3F 庁議室

< 会議次第 >

1 開 会

2 挨拶

3 議 題

(1) 津山市第5次総合計画基本構想・基本計画について

(2) 津山市の学力向上について
確かな学力の向上

家庭・地域教育

4 そ の 他

5 閉 会

第2回 津山市総合教育会議 出席者名簿

平成27年10月29日

○総合教育会議 構成者

役 職	氏 名
市 長	宮 地 昭 範
教育委員長	真 木 源
教 育 委 員	長 江 真 理 子
教 育 委 員	森 尚 美
教 育 委 員	寺 元 貴 幸
教 育 長	田 村 芳 倫

総合教育会議 事務局

役 職	氏 名
特別理事（兼）総合企画部長	常 藤 勘 治
総合企画部次長（兼）政策調整室長	小 賀 智 子
総合企画部 政策調整室企画主幹	河 野 茂 夫

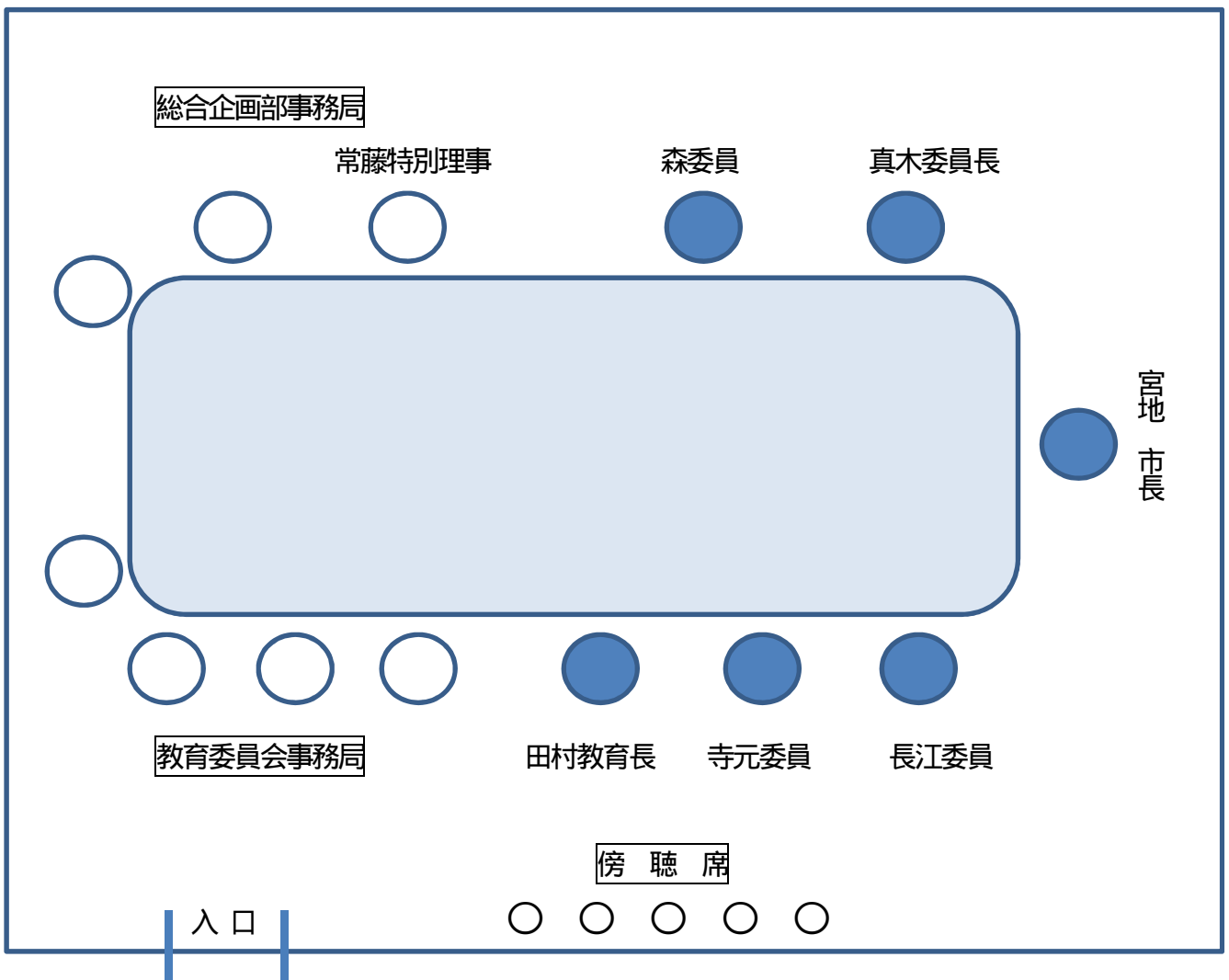
教育委員会 事務局

役 職	氏 名
学 校 教 育 部 長	和 田 賢 二
学校教育部次長(兼)教育総務課長	戸 田 博 人
学校教育部 教育総務課 主幹	仁 木 良 和
生 涯 学 習 部 長	松 尾 全 人
生涯学習部 企画調整官	朝 田 一

第2回総合教育会議配席図

日時：平成27年10月29日

場所：津山市役所 3F 庁議室



第2回 津山市総合教育会議資料

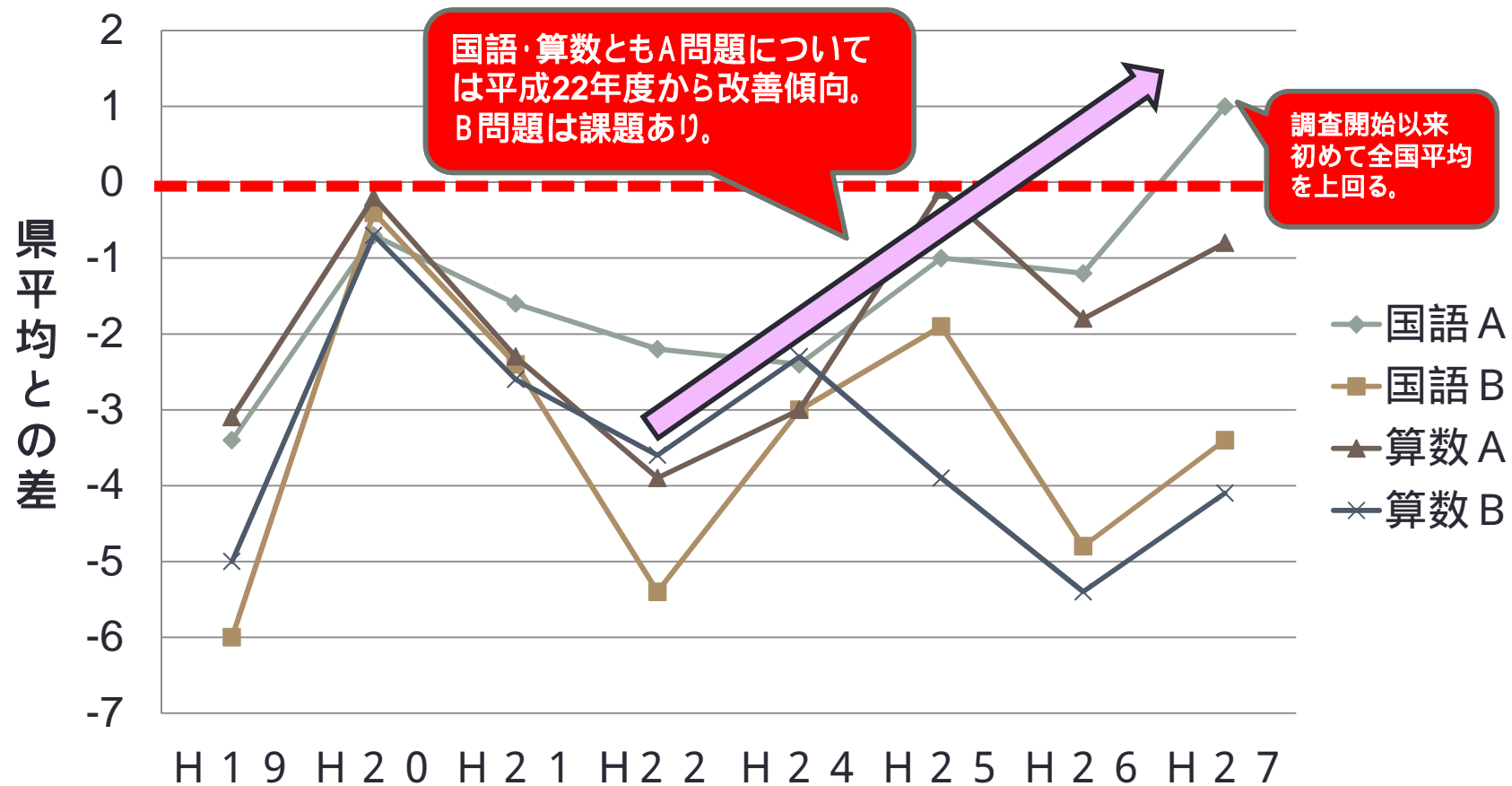
学校教育課

目次

- 全国学力・学習状況調査結果推移(小6・中3) …… P1
- 教研式標準学力調査NRT結果推移(小3・小5) …… P3
- 確かな学力向上対策(第4次総合計画後期実施計画)
…… P5
- 平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果概要
…… P7～P10
- 平成26年度 問題行動調査結果(概要) …… P11
- HP資料 (平成27年度全国及び岡山県学力・学習状況調査
結果と今後の取組について)

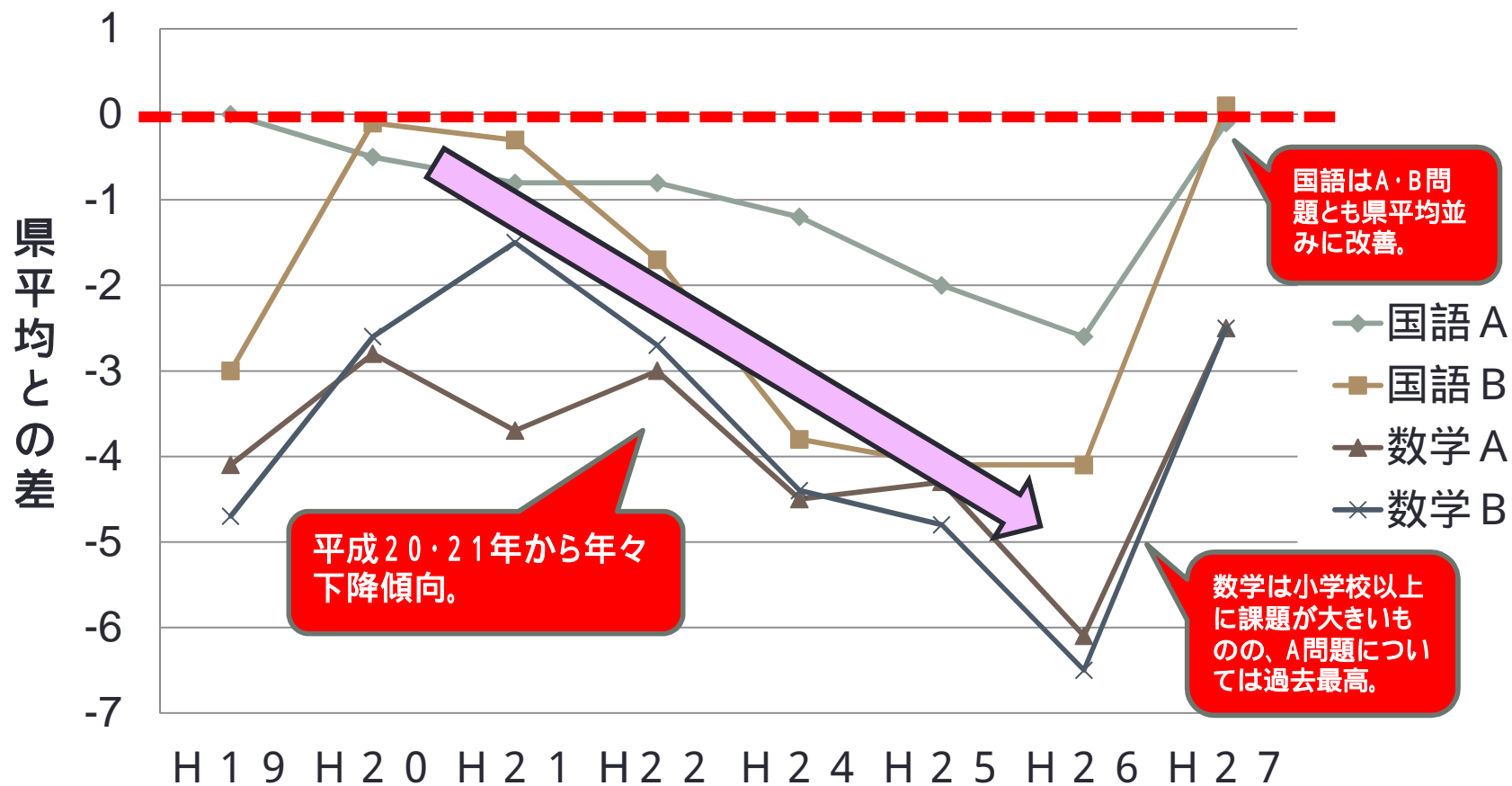
全国学力・学習状況調査結果推移

小学校6年生



全国学力・学習状況調査結果推移

中学校3年生



国語はA・B問題とも県平均並みに改善。

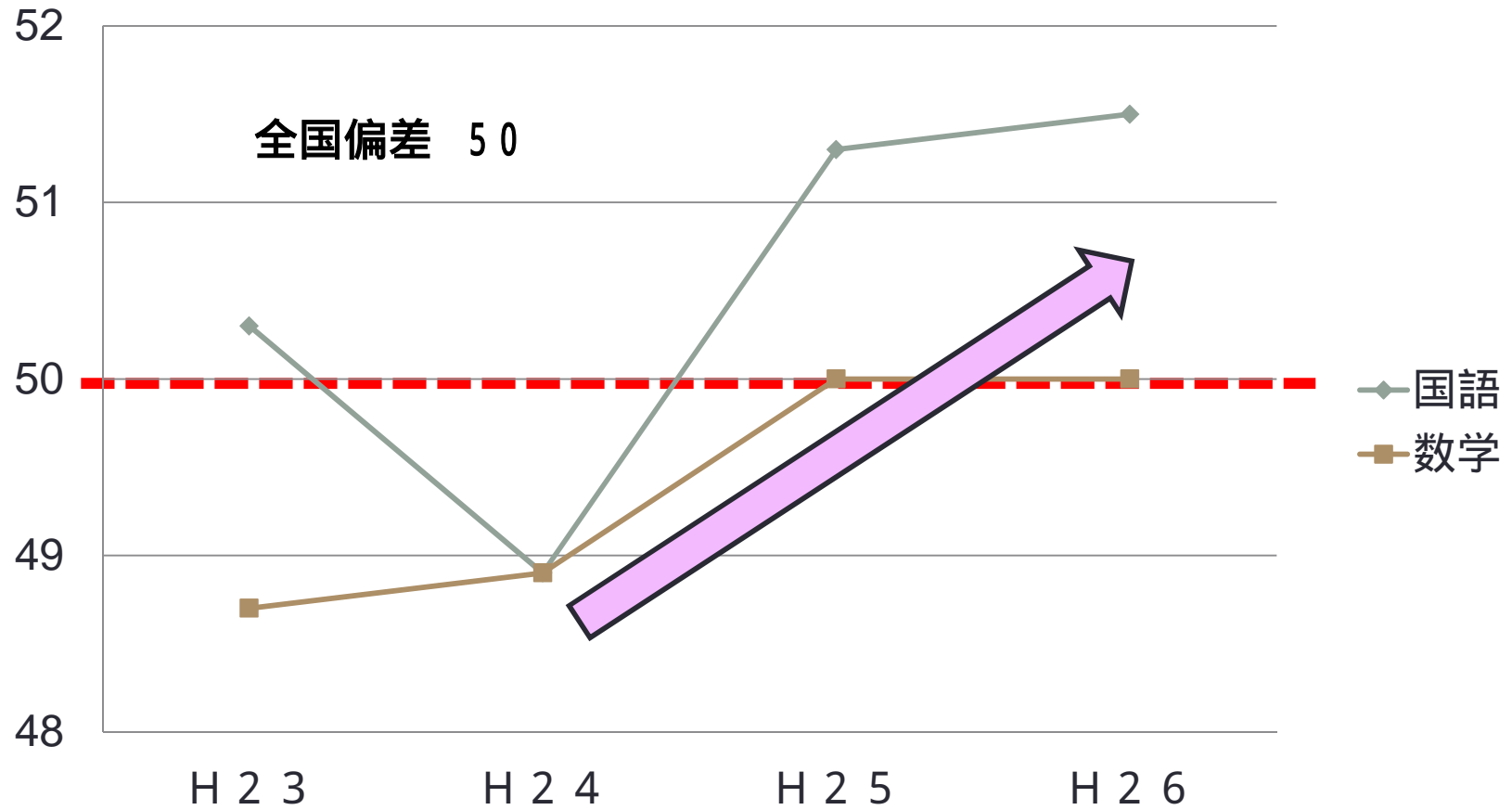
- ◆ 国語 A
- 国語 B
- ▲ 数学 A
- × 数学 B

平成20・21年から年々下降傾向。

数学は小学校以上に課題が大きいものの、A問題については過去最高。

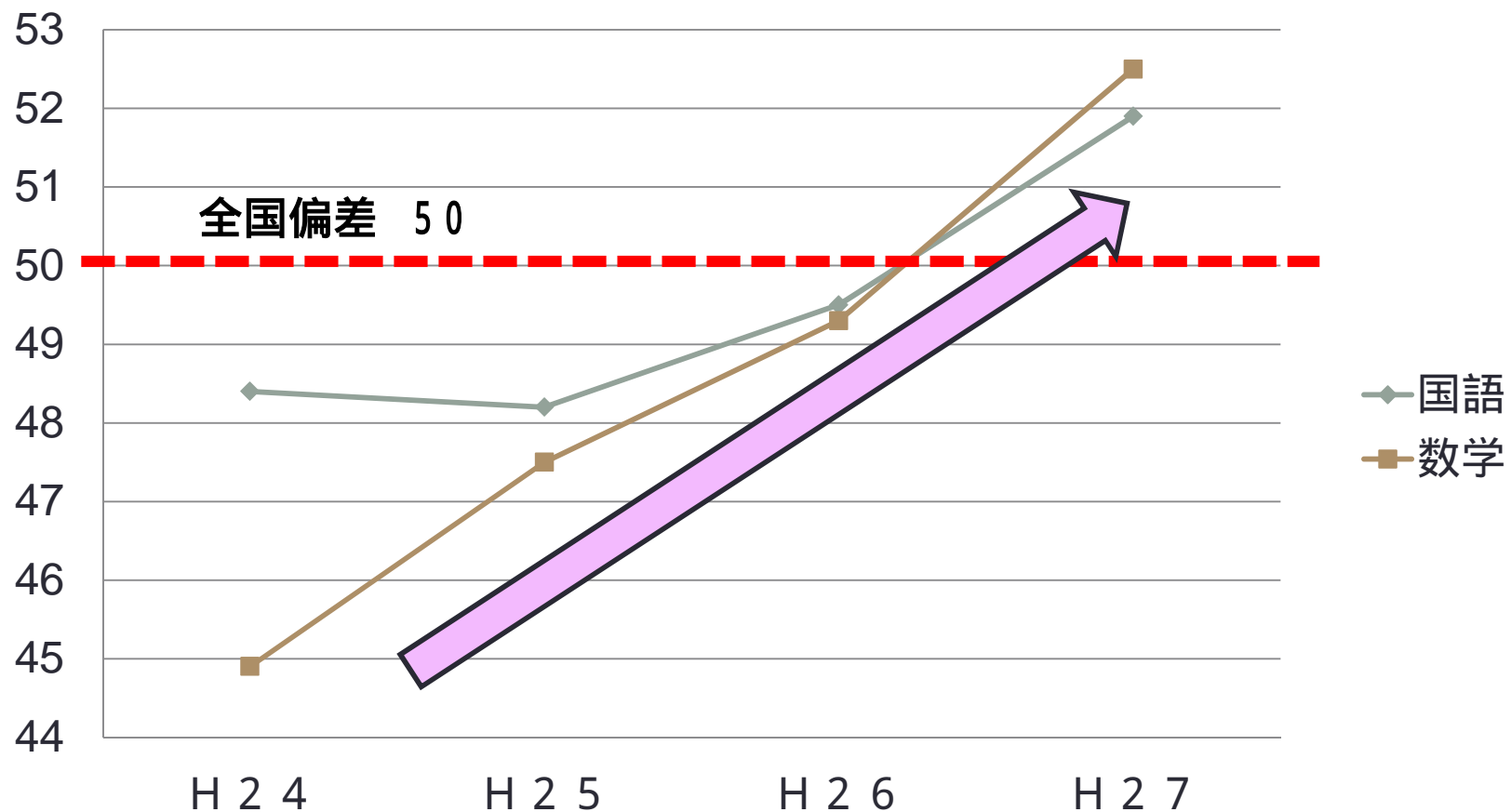
教研式標準学力調査NRT結果推移

小学校3年生



教研式標準学力調査NRT結果推移

小学校5年生



学力の状況を把握し、つまづきの解消や計画的な指導に活かすため、津山市で行っている標準学力調査では、明らかに学校の取組が成果として表れてきている。

第4次総合計画後期実施計画(平成27年度追加事業)

津山市教育振興基本計画

1 個の確立とつなぐ力を育む 1-(2)義務教育の充実

確かな学力の向上 豊かな心の育成 健やかな体の育成 特別支援教育の充実 開かれた学校づくり

目標: 全国・県学力調査結果が県平均を上回る

学力向上

津山市学校力向上推進プラン

第4次総合計画後期実施計画				
	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
標準学力調査による 学力実態把握		→		
わかる授業 (教材提示装置)			→	
35人学級編制		→		
研究指定 校内研修指定		→		
学級安心サポート	→			

H27追加
事業

中学校数学「活用力向上」プロジェクト
問題データベース(算数・数学)の導入
外部講師招聘による校内研究支援

生徒指導・不登校支援

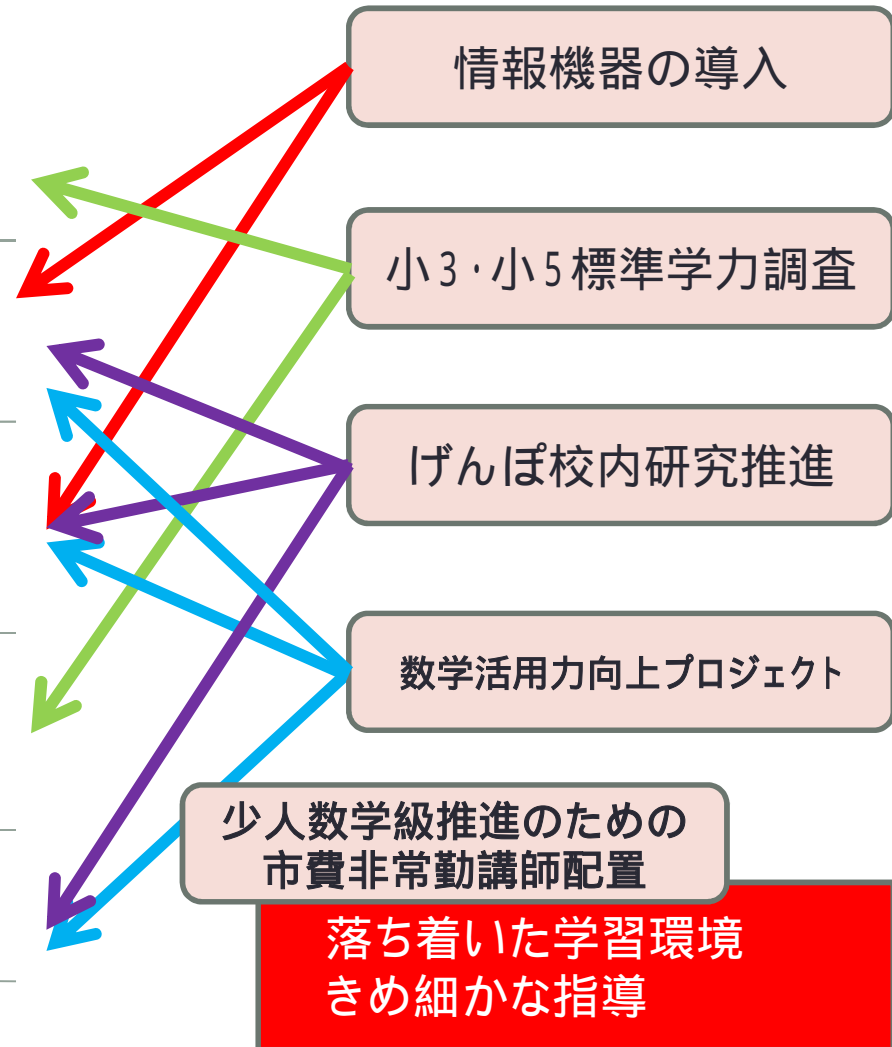
特別支援教育

【確かな学力向上対策】

検証と改善サイクルの確立



第4次総合計画(後期)



平成27年度全国学力・学習状況調査(全数調査)の結果概要について

津山市教育委員会学校教育課

1 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・このような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査日：平成27年4月21日 火曜日

3 実施対象：小学校6年生、中学校3年生（国立・公立・私立の合計）

- ・小学校6年生：津山市 973 人、県 16,722 人、全国 1,061,264 人
- ・中学校3年生：津山市 947 人、県 16,632 人、全国 1,016,451 人

4 津山市の学力状況

(1) 平均正答率（全数調査、単位％）

小学校	国語						算数					
	A 基礎			B 活用			A 基礎			B 活用		
	H25	H26	H27	H25	H26	H27	H25	H26	H27	H25	H26	H27
全国	62.7	72.9	70.0	49.4	55.5	65.4	77.2	78.1	75.2	58.4	58.2	45.0
岡山県	61.4	71.4	69.2	47.7	54.5	64.5	74.6	77.8	75.2	57.2	56.6	44.8
津山市	60.4	70.2	70.2	45.8	49.7	61.1	74.5	76.0	74.4	53.3	51.2	40.7
対県比	1.0	1.2	1.0	1.9	4.8	3.4	0.1	1.8	0.8	3.9	5.4	4.1

中学校	国語						数学					
	A 基礎			B 活用			A 基礎			B 活用		
	H25	H26	H27	H25	H26	H27	H25	H26	H27	H25	H26	H27
全国	76.4	79.4	75.8	67.4	51.0	65.8	63.7	67.4	64.4	41.5	59.8	41.6
岡山県	76.4	78.2	74.8	66.4	48.1	63.5	62.8	65.4	62.9	40.3	55.9	38.3
津山市	74.4	75.6	74.7	62.3	44.0	63.6	58.5	59.3	60.4	35.5	49.4	35.8
対県比	2.0	2.6	0.1	4.1	4.1	0.1	4.3	6.1	2.5	4.8	6.5	2.5

H27 理科	全国	岡山県	津山市	対県比
小学校	60.8	59.9	57.4	2.5
中学校	53.0	51.5	47.9	3.6

○ 学力調査については、H19の調査開始以来、はじめて小学校国語Aが全国平均を超えた。中学校の国語Bで県平均を上回った。その他、全ての科目において県平均との差が縮まり、改善が進んでいる。しかしながら、依然として、-4.1~-0.1ポイントの差がある。

小学校において、国B・算Bの活用問題において、県平均との明らかな差(-3.4ポイント)が見られる。中学校は全体的に、県平均との差が縮まっているものの、県平均自体が全国と比べて相当な開きがあり、楽観視できない。

小学校算数Bにおいて、全体的に全国平均との差が縮まり改善が見られるものの、記述式や短答式の問題に対する正答率が依然として低い。

小学校理科において、実験器具（メスシリンダー）の名前を問う設問など、基礎的基本的な内容について課題が見られる。また、実験結果や資料から考察し、自分の考えを記述したり検討したりする設問の差が大きい。

中学校においては、ここ数年の中では、県平均との差がマイナス0.1～2.5ポイントと縮まってきているが、多くの設問で平均正答率が全国平均を下回っている。国語Aでは、手紙の書き方や古典の問題、数学Aでは連立二元一次方程式の立式などの基礎的な知識を問う問題で改善傾向が見られる。

全ての科目において、目的に応じて複数の内容を関連づけて自分の考えを整理したり、判断する根拠を説明したり記述したりするなどの思考力・表現力を必要とする問題への課題が大きい。

無回答については、小学校、中学校ともにほとんどの問題で全国平均以下になるなど、大きく改善している。

学校単位で見ると、県平均を超える（目標）学校が、確実に増加してきていることは、着実な取り組みの成果であると言える。

(2) 学習状況調査（全数調査、単位％）

1	テレビの視聴時間 (1日3時間以上見る)						2	家庭学習の時間 (1日あたり1時間以上する)					
	小学校			中学校				小学校			中学校		
	H25	H26	H27	H25	H26	H27		H25	H26	H27	H25	H26	H27
全国	38.6	38.0	36.1	29.7	31.5	30.5	全国	63.2	62.0	62.7	68.6	67.9	69.0
県	39.9	37.9	34.1	32.6	35.2	34.2	県	64.3	65.0	66.1	60.4	58.8	59.0
津山市	42.9	38.7	33.7	36.3	33.9	33.3	津山市	59.7	55.0	62.4	61.8	60.4	61.9
県比	3.0	0.8	0.4	3.7	1.3	0.9	県比	4.0	10.0	3.7	1.4	1.6	2.9
3	家庭学習の時間 (家で全くしない)						4	家庭学習での復習時間 (学習内容で復習をしている)					
	小学校			中学校				小学校			中学校		
	H25	H26	H27	H25	H26	H27		H25	H26	H27	H25	H26	H27
全国	3.2	3.2	3.0	5.9	5.7	5.3	全国	21.0	21.9	23.3	17.2	17.5	18.5
県	2.3	2.3	1.8	7.3	7.3	7.1	県	20.2	20.5	22.8	12.2	12.1	12.5
津山市	2.2	2.6	2.3	8.4	7.6	6.1	津山市	18.4	11.4	18.1	14.9	13.2	14.9
県比	0.1	0.3	0.5	1.1	0.3	1.0	県比	1.8	9.1	4.7	2.7	1.1	2.4
5	読書時間 (家で全く読まない)						6	地域行事への参加 (地域行事に参加している)					
	小学校			中学校				小学校			中学校		
	H25	H26	H27	H25	H26	H27		H25	H26	H27	H25	H26	H27
全国	20.8	19.3	19.9	36.0	34.3	35.0	全国	35.8	37.7	36.9	16.7	16.6	17.5
県	18.6	18.3	18.1	34.2	32.9	33.2	県	39.3	40.6	38.9	19.4	18.0	19.5
津山市	19.6	20.7	19.9	39.0	31.6	31.8	津山市	50.4	46.3	49.4	22.2	20.9	21.6
県比	1.0	2.4	1.8	4.8	1.3	1.4	県比	11.1	5.7	10.5	2.8	2.9	2.1

学習状況調査は、県平均と比べて、良好な場合はプラスです。

学習状況調査については、昨年に比べて、ほぼ全ての項目で改善傾向が見られる。教師の意識改革が進んでいる表れである。

小学校では家庭学習の時間及び内容について依然課題が見られる。中学校ではテレビの視聴時間は県平均よりも良好だが、スマホ等の使用時間との兼ね合いを見ていく必要がある。読書時間については、小中学校とも、平日、1時間以上読書する割合が、国や県より高い。

6 津山市教育委員会の今後の取り組み等

(1) 昨年度の課題に対する総括

全国調査を受けて、調査問題を活用した授業改善、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る取組を進めてきた。具体的には、設問毎の正答率の分析から、特に、小学校においては、四則計算や小数の計算等について、たしかめプリントなどを各校で工夫して繰り返し取り組んだことで、全国平均との差が縮まり、県平均を超える学校が増えてきた。

しかしながら、取組がやや単純化、矮小化された傾向も否めず、特に、活用問題等への対策の意識が低かった。指導主事や外部講師を招聘しての授業改善の取組は、着実に進んできており、授業そのものへの教師や子どもの意識は高まっているが、調査問題で課題とされたこと（例：条件をつけての表現活動など）の授業における具体的な位置づけや取組が不十分であった。

小中学校とも、授業と家庭学習をつなぐ意識や家庭時間の確保は、依然として課題が見られる。

(2) 本調査の結果を受けて、直ちに取組むこと

調査結果や課題、改善策等を公表する際の様式例を各学校に提供する等、積極的な調査結果の公表を推進する。

検証結果を踏まえ、更なる本市の教育課題を明確にしながら、今後の教育施策の改善や現在取り組んでいる「学校力向上推進プラン」への反映を図る。また、確かな学力を育成する授業の改善と学習指導の充実に取り組む。

家庭での学習習慣については、引き続き課題が見られるので、家庭学習時間についての実態把握を行うとともに、学校と家庭及び地域が一体となった取組の充実が必要である。

家庭での生活習慣や生活リズム等の定着をより一層家庭に働きかける必要がある。

【市教委による学力向上への具体的な7つの取組】

津山市教育委員会学校教育課

取組	主な内容
【全体】 教務主任（研究主任） 会議の開催	・課題を共有し、各学校の実態に応じた対策を練る。小学校、中学校部会にわけて実施する。中学校は、県指導主事を招聘する。 全国調査の結果分析 各校の取組の総括及び今後の取組の具体化
【課題校7訪問】 ・改善プランの進捗状況	・指導主事が継続的に訪問指導する。各校が作成した改善プランの進捗状況を確認し、具体的な取組を管理職や学力担当者等と協議する。
【課題校】 学習支援員の配置 10月～1月	・特に、課題の大きい小・中学校に学習支援員を配置し、国語・算数・数学のつまずき解消の支援にあたる。（小学5校、中学3校） 支援員：週12h×16W×8名 県執行
【全体】 10～12月 小4、小5、中2 「たしかめテスト」	・11月のたしかめテストに向け、事前事後の取組等の具体作を各校へ提案する。

	<p>【中学数学】4月～ 中学校数学「活用力向上」プロジェクト</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導主事と数学科代表からなるプロジェクトチームを設置し、数学活用力向上のための研究等を行う。
	<p>【若手教員指導力】4月～ 若手教員を対象とした勉強会（げんぼ塾）月1回）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・月1～2回程度、研修テーマを設定し、連続性のある勉強会を行う。外部講師も招聘する。 ・自主参加だが、意欲的な若手教員に声をかける。
	<p>【課題校】4月～ 授業改革推進員事業と タイアップした授業改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校課題や改善プラン等に基づいた自校並びに訪問校の学力向上の組織的な取組の支援を行う。

平成26年度 問題行動調査結果(概要)

1 津山市及び国・県の結果概要 (暴力行為といじめは1000人当たりの認知・発生件数 不登校は出現率)

種 別	全 国		岡山県		津山市		県との差	
	H25	H26	H25	H26	H25	H26	H25	H26
暴力行為(小)	4.3 <small>(国公立 小中高)</small>	4.0 <small>(国公立 小中高)</small>	2.1	2.1	1.8	0.8	0.3	1.3
(中)			18.5	13.3	25.8	15.1	7.3	1.8
いじめ(小)	13.4 <small>(国公立 小中高)</small>		3.5		5.7	4.3	2.2	
(中)			8.2		9.8	7.2	1.6	
不登校(小)	0.36%	0.39%	0.43%	0.45%	0.18%	0.23%	0.25	0.22
(中)	2.69%	2.76%	2.55%	2.37%	1.89%	1.80%	0.66	0.57

2 津山市の状況

(暴力・いじめは件数 不登校は人数)

	暴力行為		いじめ		不登校	
	H25	H26	H25	H26	H25	H26
小	11	5	35	26	11	14
中	79	46	30	22	58	55

【暴力行為】

小中とも大幅に減少。家庭環境や発達障害の二次障害等が絡んでくる場合については、その特性を理解し対応できる校内指導体制の充実が必要である。

【いじめ】

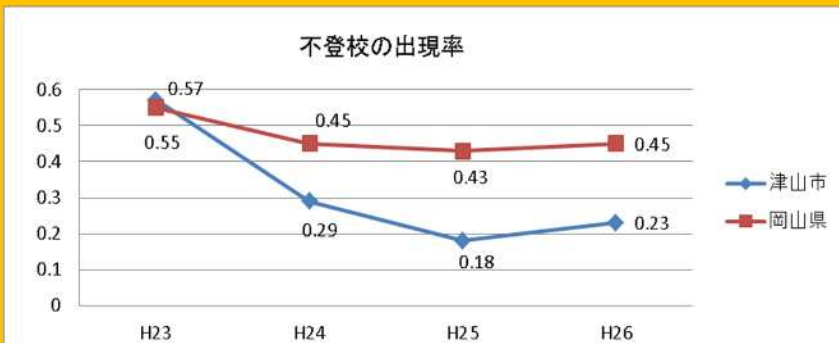
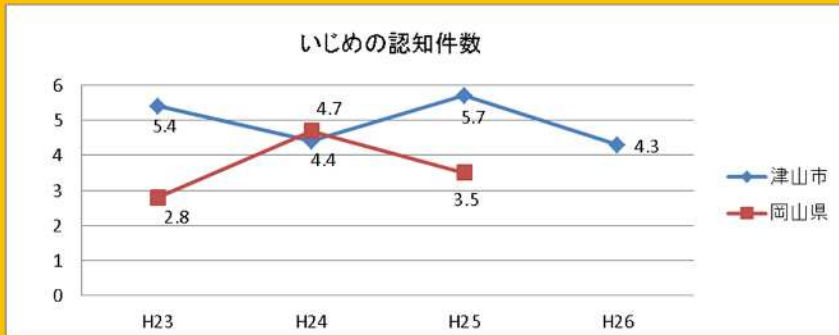
国において再調査中であり、10月下旬に公表予定。津山市では、若干の減少であり、認知された事案については、97.9%が解消している。「基本方針」に則り、子どもの主体的取組を推進する。

【不登校】

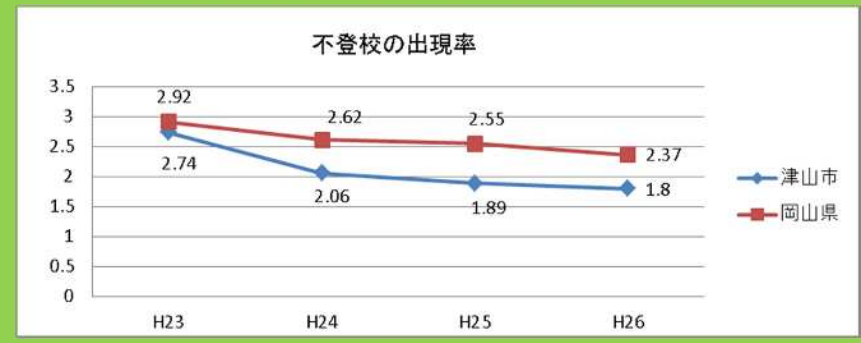
不登校についてはH25年度と同数であるが長期欠席者の数は20名増加している。専門家による見立ての中で、病気やその他に分類されるケースが増えたためである。家庭環境が多様化・複雑化する中で、今後も学校内外の専門機関とも連携し、適切な対応につなげていく。

3 岡山県との比較(H23～) (暴力行為といじめは1000人当たりの認知・発生件数 不登校は出現率)

小学校



中学校



津山市総合教育会議資料

生涯学習課

(H27年度文部科学省資料より抜粋)

学校・家庭・地域の連携協力推進事業

(平成26年度予算額 3,814百万円)
平成27年度予算額 4,882百万円

【補助率】	国 1/3
	都道府県 1/3
	市町村 1/3

近年、子供を取り巻く環境が大きく変化しており、未来を担う子供たちを健やかに育むためには、学校、家庭及び地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で教育に取り組む体制づくりを目指す必要がある。

そのため、地域住民や豊富な社会経験を持つ外部人材等の協力を得て、学校支援地域本部、放課後子供教室、家庭教育支援、地域ぐるみの学校安全体制の整備、スクールヘルスリーダー派遣などの学校・家庭・地域の連携協力による様々な取組を推進し、社会全体の教育力の向上及び地域の活性化を図る。特に、学校支援地域本部を活用し、中学生等を対象に大学生や教員OBなど地域住民の協力による原則無料の学習支援（地域未来塾）を新たに実施する。また、女性の活躍推進を阻む「小1の壁」を打破するとともに、次代を担う人材を育成するため、新たに策定した放課後子ども総合プランに基づき、厚生労働省と連携した総合的な放課後対策をより一層充実させる。

〈都道府県〉 推進委員会

- 域内の他事業との連携や教育支援活動の在り方の検討
- コーディネーター・教育活動推進員等の研修の実施
- スクールヘルスリーダーによる子供の健康等に関する指導助言等

〈市町村〉 運営委員会

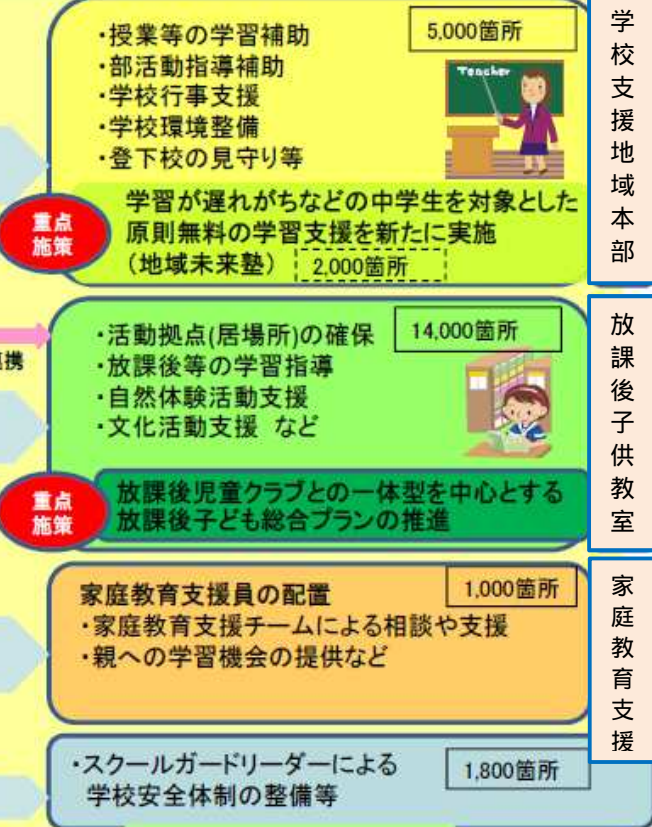
- コーディネーター等の配置
- 活動内容、安全管理方策、運営方法の検討



地域人材等の参画

教育活動推進員・学習支援員
多数のボランティア等
家庭教育支援員

放課後児童クラブ
(厚労省)



学校支援地域本部
放課後子供教室
家庭教育支援

今年度は 32 校で実施、将来は、全小中学校で予定。
東小学校は、特に優れた活動をしているとして、平成 24 年度に「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰を受賞。

放課後や休日などに地域の方々の協力を得て、体験活動や地域の方々との交流など、今年度は、19 教室で実施。

小中学校などと連携した「親学講座」や幼稚園での「家族ふれあい教室」を実施。また、子育ての悩みや不安の解消、保護者同士の人間関係づくりなどを進め子育てワークショップを 20 カ所以上で開催。

学校・家庭・地域が連携して地域社会全体で教育支援活動を実施し、地域コミュニティを活性化

地域の実情に応じて有機的に組み合わせて実施可能

(H27年度文部科学省資料より抜粋)

学校・家庭・地域の連携協力推進事業

(平成26年度予算額 3,814百万円)
平成27年度予算額 4,882百万円

【補助率】	国 1/3
	都道府県 1/3
	市町村 1/3

近年、子供を取り巻く環境が大きく変化しており、未来を担う子供たちを健やかに育むためには、学校、家庭及び地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で教育に取り組む体制づくりを目指す必要がある。

そのため、地域住民や豊富な社会経験を持つ外部人材等の協力を得て、学校支援地域本部、放課後子供教室、家庭教育支援、地域ぐるみの学校安全体制の整備、スクールヘルスリーダー派遣などの学校・家庭・地域の連携協力による様々な取組を推進し、社会全体の教育力の向上及び地域の活性化を図る。特に、学校支援地域本部を活用し、中学生等を対象に大学生や教員OBなど地域住民の協力による原則無料の学習支援（地域未来塾）を新たに実施する。また、女性の活躍推進を阻む「小1の壁」を打破するとともに、次代を担う人材を育成するため、新たに策定した放課後子ども総合プランに基づき、厚生労働省と連携した総合的な放課後対策をより一層充実させる。

〈都道府県〉 推進委員会

- 域内の他事業との連携や教育支援活動の在り方の検討
- コーディネーター・教育活動推進員等の研修の実施
- スクールヘルスリーダーによる子供の健康等に関する指導助言等

〈市町村〉 運営委員会

- コーディネーター等の配置
- 活動内容、安全管理方策、運営方法の検討



地域人材等の参画

教育活動推進員・学習支援員
放課後児童クラブ
家庭教育支援員
多数のボランティア等

重点施策

- ・授業等の学習補助
- ・部活動指導補助
- ・学校行事支援
- ・学校環境整備
- ・登下校の見守り等

5,000箇所

重点施策

学習が遅れがちなどの中学生を対象とした原則無料の学習支援を新たに実施（地域未来塾）

2,000箇所

重点施策

- ・活動拠点(居場所)の確保
- ・放課後等の学習指導
- ・自然体験活動支援
- ・文化活動支援 など

14,000箇所

重点施策

放課後児童クラブとの一体型を中心とする放課後子ども総合プランの推進

重点施策

家庭教育支援員の配置

- ・家庭教育支援チームによる相談や支援
- ・親への学習機会の提供など

1,000箇所

重点施策

- ・スクールガードリーダーによる学校安全体制の整備等

1,800箇所

地域の实情に応じて有機的に組み合わせて実施可能

学校支援地域本部

放課後子供教室

家庭教育支援

津山市は、国事業を岡山県が「おかやま子ども応援事業」として実施している補助金を活用し、学校支援地域本部事業、放課後子供教室、家庭教育支援を進めています。

今年度は32校で実施、将来は、全小中学校で予定。東小学校は、特に優れた活動をしているとして、平成24年度に「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰を受賞。

放課後や休日などに地域の方々の協力を得て、体験活動や地域の方々との交流など、今年度は、19教室で実施。

小中学校などと連携した「親学講座」や幼稚園での「家族ふれあい教室」を実施。また、子育ての悩みや不安の解消、保護者同士の人間関係づくりなどを進め子育てワークショップを20カ所以上で開催。

学校・家庭・地域が連携して地域社会全体で教育支援活動を実施し、地域コミュニティを活性化